

創

—第79回—

別府市100年の悲願

別府市は令和6年に市制施行100周年を迎えます。しかし一足先に今年100周年を迎えた施設があります。

別府市立図書館です。

別府町時代の大正11年に、別府北尋常高等小学校の一角に開館して以来、別府市公会堂の時代を経て、現在の千代町に移りました。この間、市民に愛され、人と地域を育んできました。

しかし現在の図書館では手狭で蔵書数や駐車台数も限られているなどの問題があり、新図書館建設は多くの市民にとっての願いでした。今回、その市民の願いをのせた新図書館のイメージ図をようやく公表する事ができました。完成は令和7年度と、もう少し時間はかかりますが今後設計の詳細を煮詰め、いよいよ着工となります。



別府市長
長野 恭紘

市長就任以来、新図書館はこの市政で絶対成し遂げると決意していました。途中コロナの影響もあり、予算を市民生活の安定、事業支援に振り替えるなどし全体計画は遅れてしまいましたが、結果としてもう一度中身を見直す機会となりました。転んでも絶対に対策では起きない市政です(笑)。

場所は市役所西側の文化ゾーンを東西に延びる配置。最大収容冊数は約32万冊。駐車場は敷地北側に整備し、市役所西側の駐車場もあわせてご利用できます。詳細は月号の市報をご覧ください。

別府市100年の悲願。先人に感謝し、これからの繋がる別府市の知の拠点づくりが始まります！(10月6日執筆)



フォトべっぷ



おいしい乾しいたけ—9月8日、子どもたちにしいたけの魅力を伝えようと、別府市椎茸生産組合から約9kgの学校給食用乾しいたけが寄贈されました。いただいた乾しいたけは市立幼稚園・小中学校の給食でだんご汁などの具材に使用します。



食文化とアート—大分の食文化やアーティストの作品を紹介する「第1回まつばらマルシェ」が10月8日～10日に松原公園で開催されました。コンセプトは「ふれる、ひろがる。明日につながる。」第2回は11月3日～6日に同公園で開催予定です。



秋の月夜を彩る—今年で22回を迎える「竹と月夜の調べ」を10月8日に別府市竹細工伝統産業会館で3年ぶりに開催しました。幻想的に彩られた竹灯りの中、来場者たちは大竹かごの制作実演やアンサンブル「Torte」による美しい演奏を楽しみました。



百年を祝う—図書館開館100周年記念事業「大別府展」が11月6日まで別府市立図書館で開催中です。共に100周年を迎える大分みらい信用金庫の協力のもと、別府の古い絵はぎや3万点を超える図書館の郷土資料の中から古地図などを展示しています。